栃木県市町村保健師業務研究会

保健師だより

発行
栃木県市町村保健師業務研究会
平成２７年３月１日
第８号

会　長　挨　拶

栃木県市町村保健師業務研究会会長　岡崎　浩子（足利市）

寒さの中にも、日増しに春の兆しを感じる季節となりましたが、皆様には日々ご活躍のことと存じます。

近年、地域保健を取り巻く状況が大きく変化してきたことから、平成２５年４月に厚生労働省は、「地域における保健師の保健師活動指針」の見直しを行いました。この中で、地方公共団体に所属する保健師については、保健、医療、福祉、介護等に関する専門的知識に加え、連携・調整に関する能力、行政運営や評価に関する能力を養成すべく、研修等により人材育成を図っていくべきことが示されました。更に、昨年３月、県においても現任教育体制の確立や研修体制の整備及び保健師の計画的育成を図るため「栃木県保健師現任教育指針」が策定されました。昨年は、各健康福祉センターにおいて「栃木県保健師現任教育指針」を活用した研修会が開催されました。研修会では、目指すべき栃木県の保健師像を共有したうえで、初任期・中堅期・管理期の各キャリアにおける保健師に求められる基本的能力、行政能力、専門能力について目標管理シートによるセルフチェックを実施しました。これにより自己の成長過程や現状の課題を認識でき、自ら成長するための意識を持つことができたのではないでしょうか。

少子高齢化や人口減少など社会情勢が変化している中、保健師の分散配置も進み、様々な場で保健師が活躍することになりますが、どのような部署にいても、どのような業務を担当していても「住民の健康な暮らしを守る」という保健師の一貫した姿勢は変わりません。

このような中、健康課題が変化し、保健・福祉・介護・医療に関する法律等の改正が相次ぎ、保健師への期待が益々大きくなり、増加する業務量に業務体制が追いつかず、息切れしそうになることがあるかもしれません。

本会は、地域保健関連施策の担い手としての保健師の活動のあり方が変化しても、保健師一人ひとりが「見る」「つなぐ」「動かす」という保健師活動のコアを見失わず、常に予防的介入の視点を持ち、地域の中で元気に生き生きと活動し続けていくための力になれるよう研修会や調査研究を実施しています。今後も役員一同、本会の活動の充実と発展に向け取り組んでいきたいと考えておりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

《調査研究班》

調査研究班　白石　孝江（栃木市）

調査研究班では、平成 25・26 年度の２か年にわたり「成人の歯科保健事業の取り組み」をテーマに調査研究に取り組んでおります。

成人の歯科保健事業の課題を明らかにするために、昨年県内市町全保健師を対象に、成人歯科保健事業の意識調査を行いました。現在は、衛生福祉大学校の青山先生にご助言を頂きながら、まとめの段階に入っているところです。

調査の結果、経験年数に関係なく、成人保健を担当した多くの保健師から、歯科保健に対する住民の関心の低さや、歯周疾患検診の受診率が低い等の課題があがり、普及啓発や検診の取り組み強化の必要性が浮き彫りとなりました。さらに、歯周疾患検診以外の切り口やかかりつけ医を増やすための対策等が、今後の取り組みとして重要であると考えられます。報告書が出来上がりましたらぜひ、今後の参考にしていただきたいと思います。

《研修・広報班》

研修広報班　岡崎　眞弓（市貝町）

研修・広報班では、県内市町の保健師が情報交換し、地域を取り巻く諸問題を共有し、保健師活動の見直しと資質の向上を図るため、研修会を企画しております。

平成 26 年度は、地域保健活動の軸となる保健師活動の根幹を学ぶ研修や、今年度初めての試みとして階層別研修会を企画し、保健師のメンタルヘルス支援関係研修も実施いたしました。アロマのやさしさに触れ、癒されたのではないでしょうか。研修会に参加できなかった方は、保健師だよりにまとめましたので、ご参考ください。

皆様から要望のあった研修で、講師の都合により今年度実施できなかった研修は、次期役員に申し送り、次年度開催する段取りをしました。今後も保健師活動に有用な研修会になりますよう、皆様のご意見ご要望をよろしくお願いいたします。

◎第 1 回研修会

第 1 回研修会は、「地域における保健師活動と地域ケアシステムについて」と題し、慶應義塾大学看護医療学部教授　金子仁子氏より講話いただきました。

まず地域保健対策の推進における基本指針として、ソーシャルキャピタルを活用した自助及び共助の支援の推進と、地域の特性をいかした保健と福祉の健康なまちづくりの推進について述べられました。さらに、医療、介護及び福祉等の関連施策との連携強化、地域における健康危機管理体制の確保、学校保健との連携、科学的根拠に基づいた地域保健の推進、保健所の運営及び人材確保、地方衛生研究所の機能強化、快適で安心できる生活環境の確保、国民の健康づくり及びがん対策等の推進についても言及されました。

地域における保健師の保健活動に関する指針につきましては、地区診断に基づくＰＤＣＡサイクルの実施と、予防的介入の重視、地区担当制の推進、地域特性に応じた健康なまちづくりの推進、部署横断的な保健活動の連携及び協働、地域ケアシステムの構築、各種保健医療福祉計画の策定及び実施、そして人材育成が求められているとのお話しでした。その中でも保健師は、ライフサイクルを通じた健康づくりを支援するため、ソーシャルキャピタルを醸成し、関係機関と連携を図りつつ、社会環境の改善に取り組み、地域特性に応じた健康なまちづくりを推進することが重要だと述べられました。

地域ケアシステムにつきましては、保健師の役割として、健康問題を有する住民が、その地域で生活を継続できるよう、保健、医療、福祉、介護等の各種サービスの総合的な調整を行い、また不足しているサービスの《開発》を行うなど、システムの構築に努める必要があるとのお話しでした。具体的には、健康ニーズを明確にした上で、システムに関わる人々・機関に対して注意喚起を発信し、会議等への参加をはかり、現状をとらえてもらうこと、そのためには、分析し、概念化、文章化、資料化する能力と、会議を企画運営する能力、そして説明力、交渉力と、予算を理解し、要綱等作成する能力が求められるとのことでした。保健師としてかつて体験されたフィールドワーク等のお話しも織り交ぜながらの講話でした。

◎県南ブロック共催研修会

昨年度に引き続き、栃木県市町村保健師業務研究会と県南健康福祉センター管内保健師業務研究会との共催で研修会を実施しました。

今年度の研修では、『栃木県保健師現任教育指針を踏まえて』と題し、栃木県保健福祉部医療政策課看護職員育成担当課長補佐金澤優子氏と看護職員育成担当係長金子敬子氏より講話をいただきました。

国が示す今後の保健師活動の方向性であり、自治体で活動する保健師の本質でもある、①地域を「みる」「つなぐ」「動かす」②予防的介入の重視③地区活動に立脚した地域特性に応じた活動の展開の３点を推進していくために、『栃木県現任教育指針』にある目標管理シートを活用して欲しいと講演がありました。また，グループワークにおいては、参加者の階層に応じ、新任期、中堅期、管理期に分かれ、実際に本シートを用いて目標達成度の確認作業を行いました。自分がどの位置にあり、不足している経験値は何かということを確認するためにとても有効なツールでしたので、各自治体においてもぜひ活用してみてください。

◎第２回研修会

第２回研修会は階層別研修で、概ね経験年数 20 年以上の方を対象に実施しました。保健師自身のメンタルヘルスとモチベーション向上のために、アロマテラピーとハンドマッサージの体験を中心に、いのちの森株式会社メディカルアロマセラピスト　斉藤京子先生の講話をいただきました。

アロマは、ただいい香りがするだけでなく、その効用から、看護や介護また日々の生活の場面にいろいろ生かせることも知りました。また、実際に自分好みの練り香水やマッサージオイル作り等も行い、２時間と短い時間でしたが、とても心が癒される研修となりました。

～ご意見・ご感想～

- 同年代の研修の機会はほとんどないため、今後も実施してほしい。先生の人柄も素敵で、効果的なリフレッシュでした。
- アロマについて今まであまり興味がなかったが、とても興味を持ちました。ストレスをためながらの生活ですが、今日はとてもリラックスでき、すごく気持ちよくなりました。

◎第 3 回研修会

第 3 回研修会は、「地域保健活動における保健師の役割～在宅医療推進の手がかり～」と題し、国際医療福祉大学保健医療学部看護学科学科長・教授　福島道子氏より講話をいただきました。

まず、2025 年問題について、介護が必要な人の居場所の確保や、医療費の限界等社会問題があげられ、その対応として、地域包括ケアシステムが重要であるとのことでした。自分のことは自分でする「自助」がまず必要になり、その自助力を育てる役割、そしてそのサポートする役割が地域にあり、地域で活躍している保健師への期待が大きいとありました。

また、求められる看護が「少し病院、ほとんど在宅」といわれ、在宅看護においては予防支援の視点を持つこと、公衆衛生看護では予防にしばられない包括的な視点を持つことが必要であるとのことでした。

そして、病院では患者及び家族の退院後の療養を含む生活全体の問題を想定し、解決を目指す退院支援・調整が注目されており、地域との連携、カンファレンス開催が必要となり、地域が受皿になるという意識が大切とありました。

地域包括ケアシステムの構築を目指していく中での在宅医療の重要性や保健師に求められているものを改めて考える機会となりました。

～ご意見・ご感想～

- 地域包括ケアについてとてもわかりやすく説明して頂き理解できた。医療機関は高い壁であるが積極的に関係をつくっていきたい。
- 退院支援・調整の重要性や進め方等詳しい話しをしていただき、実際、病院ではこんなことが行われているんだなぁ…ということが理解できました。また、それに保健師が関わることの重要性も感じました。

研修会参加支援のご案内

今年度も日本公衆衛生学会などの研修会参加に際して、負担金や旅費の支援を実施しました。

来年度も実施を予定しておりますので、ぜひご活用ください。

編集後記

平成 27 年は、羊（ひつじ）年です。ますます複雑化する社会環境の変化の中、保健師活動も多様化し、その期待も大きくなるばかりです。

草原にのんびりと放牧された羊は、時々遠くを見て、次にどの草がおいしいかじっと見て吟味しています。私たちも、時々は遠くをみて、保健師活動が「うめぇ～」くいくといいですね。

保健師の皆様のご活躍をお祈りいたします。

（研修・広報班役員一同）